（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	UNICOまくはり　放課後等デイサービス

公表日　2025年3月28日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		基本は個別対応。利用者１人に対して２名の職員で音楽セッションを実施している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		室内外に階段あり。事業所への出入りの際、必要に応じてスロープを用いたり職員が車イスの上げ下げのフォローしたり、ご家族のニーズに応じて都度対応している	完全なバリアフリーではないが、工夫をしている。視覚的な情報が少ないため、掲示物などを工夫する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		余計な物は排除し、集中できる環境を作っている	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		状況に合わせて、部屋を使い分けている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		担当者も参画し計画書をたてている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		面談や個別の時間をとり、意向の把握に努めている	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員の意見等を把握する機会を設けている。	業務改善までには時間がかかることが多い。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者による外部評価は行われていない。	第三者評価を検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的に（毎月）スタッフ研修が実施されている その機会によって充分な学びを得ている	外部研修への参加時間の確保が難しい。
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページに掲載している。	周知が足りていないため、掲示などして周知を図ります。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメントをとり、情報を職員で共有している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員間で、子どもたちのことについて話し合う機会を設けている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	○		担当している職員間では共有し支援にあたっている	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		記録に残し情報共有を行っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに沿って計画書を作成している	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		担当者同士でプログラムの立案を行っている	

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		個別対応なので、その日の体調や様子で支援方法を変更している。また、本人の意思を尊重している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別対応で行なっている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		○	打ち合わせは必ずはできていないが、終了後や後日行っている。	時間の確保が難しい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。		○	打ち合わせは必ずはできていないが、できない場合は、後日行っている。	時間の確保が難しい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録は必ず残している。	時間の確保が難しく、後日記録することがある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリングを実施、計画書の見直しをしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		子どもの意思を尊重している。意思決定ができるよう、促すような支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当が参加するようにしている。やむを得ない場合は、照会を行っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○	他分野との連携は薄い。	医療系の連携は図れていない。今後は勉強会などに参加するなどして連携を図って行く。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。		○	保護者から学校の様子を聞くようにしている。	保護者から聴くことが多く、学校との連携が図れているのは数人のみ。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	保護者から様子を聞くようにしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		他分野との連携がとれていない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。		○	児童発達支援センターと連携はとっているが、スーパーバイズや助言や研修は受けていない。	時間の確保が難しい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		イベントを開催し、地域の子どもたちとの交流の場を設けている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	協議会への参加はしていない。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		セッション終了後に、保護者との時間を設けている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	家族向けの研修は行えていないが、家族と参加でするイベントを開催している。	時間の確保が難しい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に丁寧に説明を行っている。 チェックシートを用いて、漏れが内容にチェックしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談を実施している。また、変化時に時間をとり意向を確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	○		面談時に丁寧に説明をおこない同意をえている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		話しやすい環境を心掛けている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		イベント開催時にボランティアを募り、家族の交流の場にしている。	参加者が限られてしまうこと。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		職員間で情報共有している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		SNSを利用し発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		プリントやホワイトボードなどを準備し支援にいかしている。	視覚情報が少ないため、掲示物の工夫を行っていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		イベントを開催、民生委員の研修協力を行っている。地域のイベントに出店している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルは作成し掲示しているが、周知が足りないと感じた。	フローチャートなどを作成し、わかりやすい内容に変更するなど検討する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			救出についての訓練は行っていない。また。医療系の職員がいない。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		面談時や専門的支援計画書作成時に聞き取りを行っている。	情報が不足していると感じ、改善に努めている
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	食事の提供はしておらず、保護者が待機しているので詳しくは聞き取りを行っていなかった。	食事は提供していない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			十分とは言えないの、今後さらに強化する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	○			周知が足りていないので、フローチャートなどを貼りだすなど検討する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットを記録し、情報共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		職員研修で、身体拘束の勉強会を実施している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		職員研修で身体拘束についての勉強会を行っている。スピーチロックに気をつけている。	